

クイガアブラムシ防除適期の把握

(株)えな笠置山栗園は、グリーンピア跡地を活用し、クリ16haを経営している。令和5年に同クリ園で、クイガアブラムシが大発生し、クリが完熟する前に毬が裂開する若はぜ被害や吸汁痕被害により大きく減収した。同クリ園から要請を受け、令和6年から本虫に対する防除方法の確立に向けた調査を開始した。



活動内容

クイガアブラムシの防除適期は、越冬場所から毬へ移動し寄生を開始する時期である。粘着テープを用いて移動する本虫を捕殺し、移動時期を把握する調査を実施した。

成果

本虫は、6月第4半旬から移動が活発化したことを確認し、生産者へ情報を共有、6月末に防除が行われた。適期防除により、前年9.7%の吸汁痕被害があった調査樹の今年の被害は0%※であり、生産者からは「今年は被害はとても少ない」との感想が聞かれ、防除効果が確認できた(※同時期の1日に収穫した果実の被害果率を比較)。

8月第5半旬の収穫期以降に、本虫が移動分散を活発化させたことを確認した。越冬に向けた移動とみられ、越冬卵が多いことが予想されたため、本クリ園に対し、冬～春にかけて越冬卵防除を提案した。

図1. クイガアブラムシ捕殺数推移(R7)

